はじめに

特集「女のドラマ」の系譜は、向井の「『曽根崎心中』の方法」に端を発したもので、近松門左衛門が発見したと向井が言う「女のドラマ」の方法が、果たして日本演劇史の中で画期的なものとして存在していたのか、という課題設定に対して、能に始まる演劇や語り物の流れに即して戯曲論の中で、その存在を確認しようとしたものである。

「女のドラマ」とは、男女の主人公の登場するドラマで、女性の主人公により強く、より重い、ドラマを進める力―主導力を持たせ、ドラマの行方・未来を先見的に見る力―予知力を持たせたものを指す。それは、洋の東西を問わずドラマの主人公が男性中心で、そのことにほとんどだれも偏りのあることを感じないことに始まる。ここでは、女性ばかりの登場する、女だけのドラマとしての「女のドラマ」は、対象とはしない。

近松門左衛門が発見するまでは、存在しなかったのではないか、というのが予めの見通しであったが、検討を加えるに従って、その可能性の存在が、それぞれの戯曲や語り物の中に認められるようになった。近松の周辺の浄瑠璃・歌舞伎などの考察も十分ではないし、その後の浄瑠璃史の中での展開過程もまだ検討し終えていない。

それゆえに、「女のドラマ」の系譜論として集約出来るほど、明確なものにはまだなっていない。ここでは、既に、完了した前半の部分の各論を、その流れに沿って並べるに留どめ、全体の行方の見極めは、再度の試みのときまで保留しておきたい。

（向井芳樹）